



なぞって練習

そこに白く咲いているのは何の花かという歌を口ずさんでいると、中將の源氏につけられた近衛の隨身が車の前に膝をかがめて言った。「あの白い花を夕顔と申します。人間のような名でございまして、こうした卑しい家の垣根に咲くものでございいます」

その言葉どおりで、貧しげな小家がちのこの通りのあちら、こちら、あるものは倒れそうになった家の軒などにもこの花が咲いていた。

■参考

※近衛 [このえ]

※隨身 [ゆきごころ]

(青空文庫のつじがなより)